8/21(土) まいど！倫理号です。8月もアッという間でした。
「苦難は幸福の門」皆さんも経験あろうかと思います。
苦難に向ってゆく事で解決した事が有難い教えです。
幸せ運ぶアホー鳥

今週の倫理

8月のテーマ ｜ 倫理経営

2021. 8. 21～8. 27

1243号

苦難から目を背けず 真正面から向き合う

「倫理経営」とは「経営者が純粋倫理という生活法則をよりどころ、手本にして、トップリーダーとしての人間力を磨き高める、その力を土台にした経営」です。

「純粋倫理」は、経営者モーニングセミナーで使用している基本テキスト『万人幸福の栞』にまとめられている「十七カ条」をはじめとする、大自然の生活法則です。

その中に「苦難は幸福の門」という項目があります。会社経営に限らず、家庭や自身の健康上のことなど、日常生活を送る上で、私達には日々何らかの「困ったこと」がつきものです。予期せぬトラブル等が発生した際には、純粋倫理の苦難観に立って対処していくことが肝要です。

倫理研究所の創設者である丸山敏雄は苦難が発生した際の実践について次の三点を挙げています。

一．苦難に真正面から向き合う。
二．苦難の本質を見極める。
三．一つ一つ正しく切り開いていく。

苦難は人をより良くするために起こると純粋倫理では説きます。苦難と向き合わず、逃げたり目を背けたりすると、ますますその勢いを強めてくるものです。

また、苦難が起こる原因が分かる場合と、分からない場合があります。後者の場合は、「苦難はより良くするために起こる」と受けとめて、目の前のすべきことに善処する他ありません。苦難を乗り越えた後に、振り返って分かることが多くあります。

住宅設備機器製造会社を営むMさんは、ある展示会で出品した自社製品のトラブルによって、展示会の開催が中止となる事態にまで陥ってしまいました。

展示会の主催会社からは多額の賠償金を請求されるなど、Mさんの会社は存続が危ぶまれる程の危機に直面したのです。

Mさんは主催会社に足繁く通い、誠心誠意を尽くして謝罪する日々を続けました。

そんなMさんの姿を目にしたMさんの会社の社員達は「今回の危機から自分達も変わらなければいけない。製品の企画から製造過程まで、全てを一から見直そう」と、一丸となって自社製品の改良に取り組みました。Mさんの真心が先方に伝わったのか、展示会主催会社とは和解の運びとなりました。また、この事故を機に、自社製品が改良化されたことによって、Mさんの会社を支える代表的な製品が誕生したのでした。

会社存続の危機といえるほどの苦難に、Mさんが真正面から向き合ったこと、そして社員一丸となって問題解決に取り組み、自社製品の改良に取り組んだことで、Mさんの会社は以前よりもさらに発展する結果となり、苦難は人や会社をより良くするために起きてくるという「苦難は幸福の門」を体感したのでした。

苦難の原因は自分ではなかなか分からないものです。倫理法人会の会員特典である「倫理経営指導」を利用し、苦難を乗り越える手がかりをつかみましょう。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局